



内装用仕上材

漆喰くるむ<sup>®</sup> **内**

施工要領書

【改定】 2020 年 12 月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

**Best Walls, Best Life**

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

## 1. 使用材料

### 【 使用材料 】

| 使用材料    | 荷姿          | 適用部位     | 標準塗り厚    | 施工面積                    |
|---------|-------------|----------|----------|-------------------------|
| 漆喰くるむ-内 | 18kg<br>プラ缶 | 内壁<br>天井 | 約 1.0 mm | 約 12 m <sup>2</sup> /缶* |

※パターンや塗り厚、下地の状態によって前後します

| 使用材料 | 荷姿            | 用途       |
|------|---------------|----------|
| 液体顔料 | 250ml プラスチック瓶 | ペーストの着色用 |

| 使用材料                   | 荷姿              | 標準塗り厚    | 施工面積                            | 用途                         |
|------------------------|-----------------|----------|---------------------------------|----------------------------|
| マルチベース<br>(内壁の湿式下地)    | 20kg<br>紙袋      | 約 1.5 mm | 約 12 m <sup>2</sup> /袋          | せっこうボード下地の<br>目地処理材および下塗り材 |
| ボードプラスターF<br>(内壁の湿式下地) | 20kg<br>紙袋      | 約 1 mm   | 約 16 m <sup>2</sup> /袋          | せっこうボード下地の<br>目地処理材および下塗り材 |
| プレスシート<br>(内壁の乾式下地)    | 幅 920 mm×長さ 50m |          | せっこうボード・既存クロス<br>リフォーム用の内装下地シート |                            |

| 使用材料        | 荷姿          | 標準塗り厚    | 施工面積                    | 用途        |
|-------------|-------------|----------|-------------------------|-----------|
| NP-α(アルファ)  | 18kg<br>プラ缶 | 0.5～1 mm | 14～28 m <sup>2</sup> /缶 | 合板下地の下塗り材 |
| 漆喰くるむ専用ベース材 | 20kg<br>紙袋  | 約 1.5 mm | 約 10 m <sup>2</sup> /袋  | 合板下地の下塗り材 |

| 使用材料          | 荷姿                      | 用途                  |
|---------------|-------------------------|---------------------|
| ウルトラナノ浸透プライマー | 14kg プラ缶<br>または 4kg ポリ缶 | 浸透型表面強化剤<br>兼 アク止め剤 |

| 使用材料                | 荷姿              | 調合比率※3 倍希釈の場合                        |
|---------------------|-----------------|--------------------------------------|
| NP シーラック<br>(吸水調整材) | 18 kg<br>金属ペール缶 | 原液 : 清水<br>1 : 2<br>(18 kg) (約 36 ℓ) |

## 2. 適用下地

### ● セっこうボード

※セっこうボードの切断面が露出した場合は、事前にNPシーラック3倍液を塗布してください。

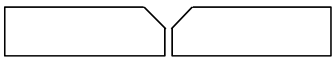
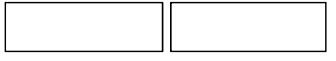
### ● 合板

### ● セっこうプラスター

## 3. セっこうボード下地のつくり方

### ● ボードの選定

・ボードの厚みは 12.5mm を推奨します。9.5mm 厚の場合、ボードの歪みによるひび割れが発生する恐れがあります。

| ボードの種類     | 推奨 | 形状                                                                                  | 備考                          |
|------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| テーパーエッジボード | ◎  |    | ボード同士の密着性が強い                |
| ベベルエッジボード  | ○  |    | ボード同士の密着性が強い                |
| スクエアエッジボード | △  |  | ボード同士の密着性が弱い<br>ひび割れが発生しやすい |

### ● ボードの貼り方・ビス留めの間隔

・より割れにくい下地にするには、二重張りを推奨します。二重張りとする場合は、必ず下張りのセっこうボードとジョイント位置をずらし、接着材を全面に塗り付け、ステープル等で固定してください。

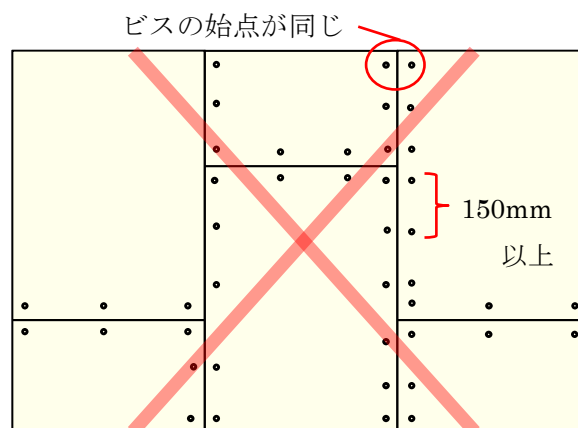
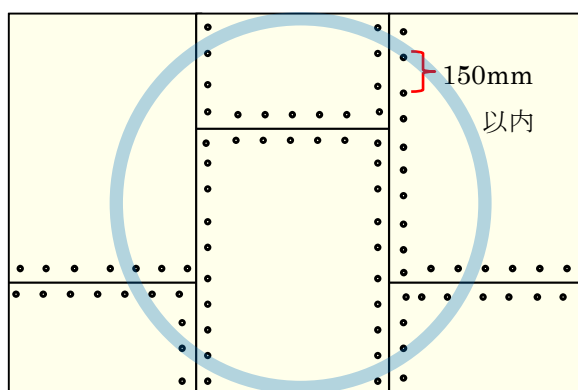
・柱、間柱の間隔は 455mm を基本としてください。

・ビスの間隔は 150mm を基本としてください。

・ビスの長さは、ボードの厚みの 2.5～3 倍としてください。

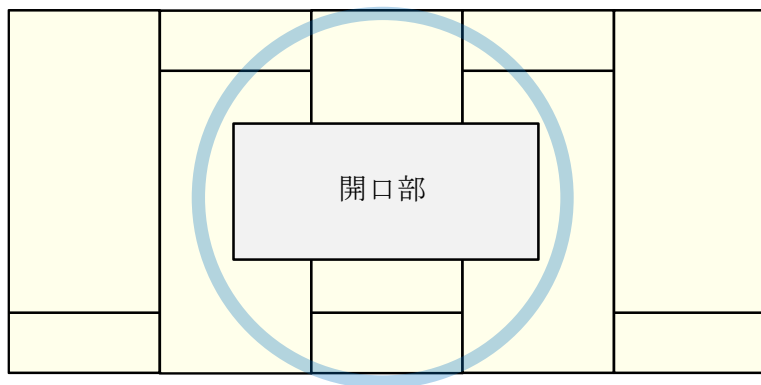
・ビスの始点が同じにならないようにしてください。

・直張り工法(ダンゴ貼り)による、セっこうボード下地はお薦めできません。

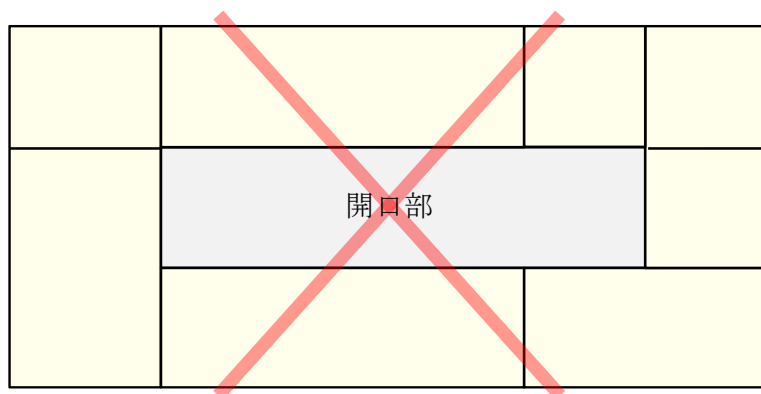


● 開口部周りの処理方法

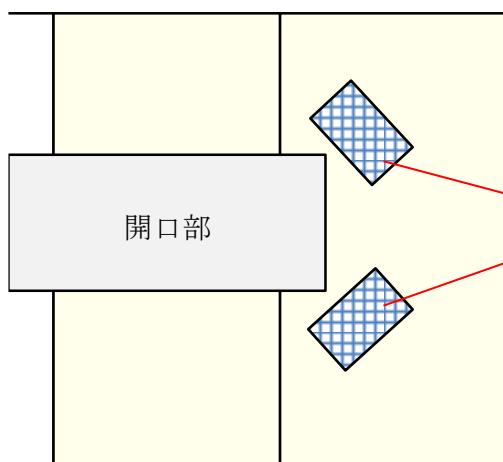
- ・ ひび割れ防止のため、開口部の角にボードのジョイント部を設けないでください。
- ・ 開口部の周りにファイバーテープを貼り補強してください。



ボードのジョイント部を窓やドアの角に設けない。

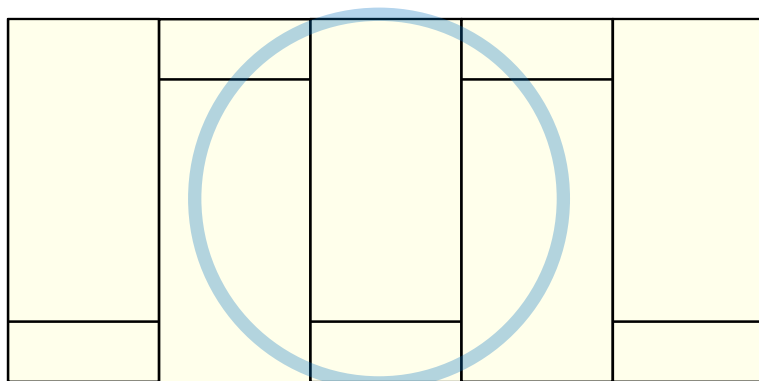


ボードのジョイント部が窓やドアの延長線にある場合、振動等でひび割れが発生しやすい。



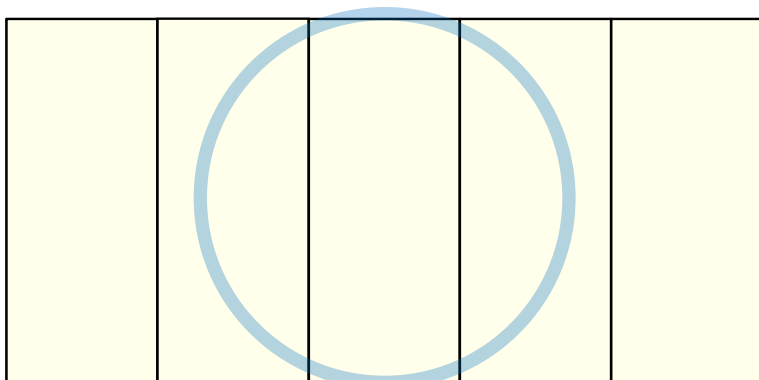
ファイバーテープを貼って  
開口部周辺を補強する

● 塗り壁に適したジョイントのつくり方



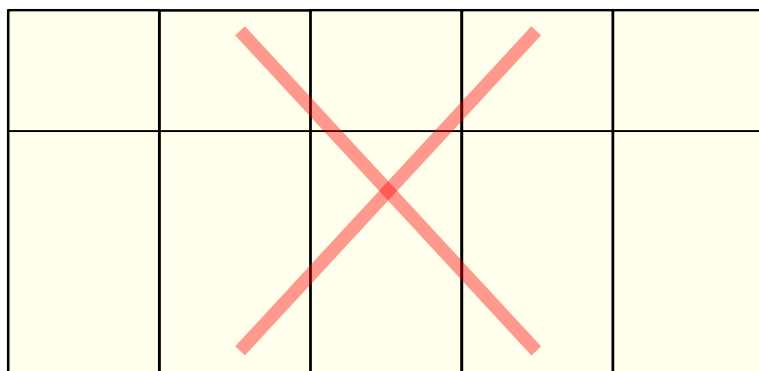
千鳥貼りすることでボードの継ぎ目に横目地が通らずひび割れしにくい。

床面



3×8 ボードを貼り、横目地をなくすことでひび割れを防ぐ。

床面

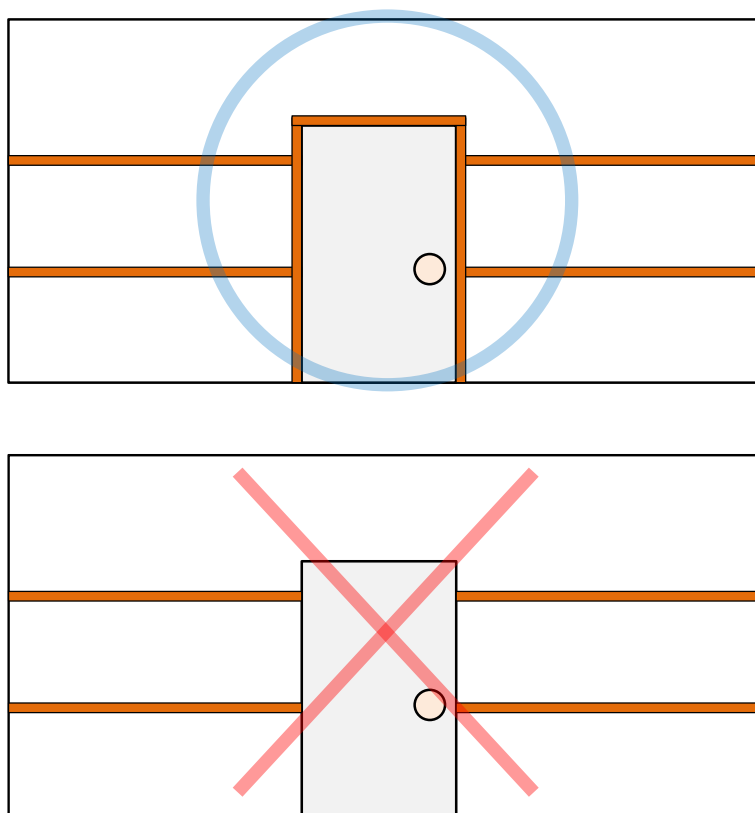


縦、横に目地が入ると動きやすく、ひび割れしやすくなる。

床面

● 受け木を設ける

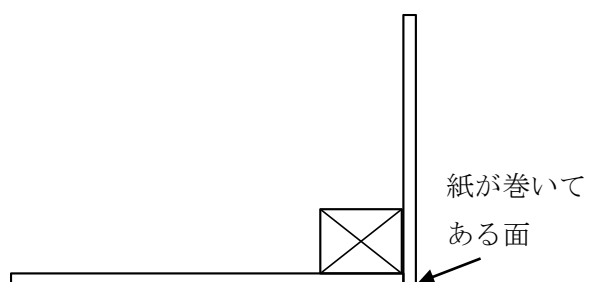
・窓やドアの周辺には受け木を設けてください。ボードが固定され、ひび割れを防ぎやすくなります。



● 出隅・入隅のつくり方

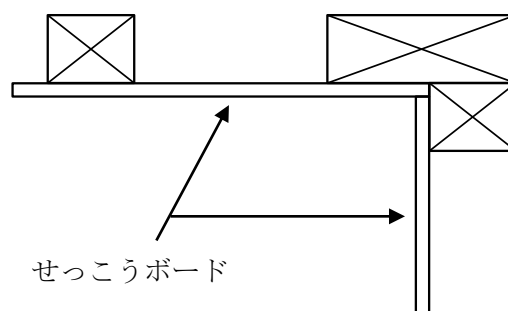
【出隅】

・出隅はボードの切断面が出ないように紙が巻いてある面を使用してください。  
・やむを得ずボードの切断面が露出する場合は、事前に NP シーラック 3 倍液を塗布・乾燥させてください。



【入隅】

・入隅は木下地で補強してください。



#### 4. せっこうボード下地の施工方法

せっこうボード下地に適用する際の施工フローを図1に示す。

(不燃材料の認定が必要な場合は、マルチベースを使用してください。)

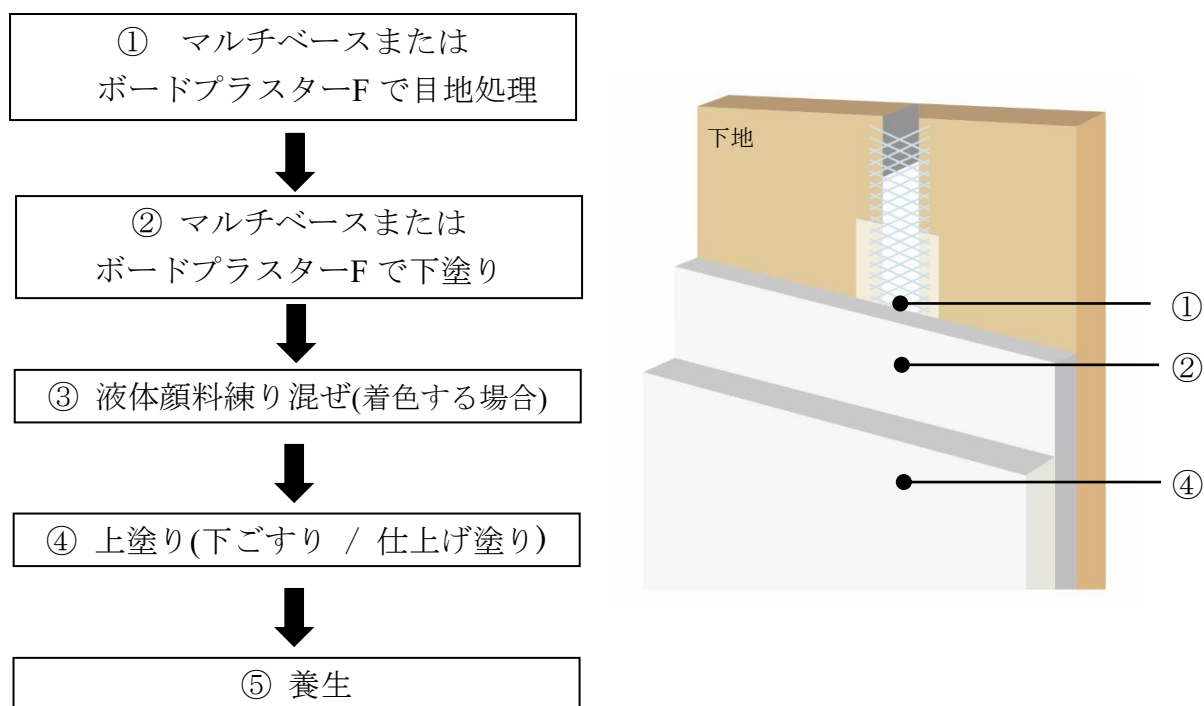


図1. せっこうボード下地の施工フローおよび構成図

#### ※ 事前の確認

せっこうボードの貼りが万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、ボードが正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

#### ① マルチベースまたはボードプラスターFで目地処理

マルチベース 1袋(20kg) に対して 清水 6.5ℓ (固練りの水量) または  
ボードプラスターF 1袋(20kg) に対して 清水 5.0ℓ (固練りの水量)を入れ、ハンドミキサーで3分以上十分に攪拌してください。

せっこうボードの継ぎ目部にマルチベースまたはボードプラスターFをしっかり埋め込み、ファイバーテープを貼り付けてください(※ スクエアエッジボードでは、埋め込みは不要です)。さらに、その上にマルチベースまたはボードプラスターFをこすり付けるように塗り付け、ファイバーテープとなじませてください。このとき、継ぎ目部が盛り上がらないよう、余分な材料は取り除いてください。

また、せっこうボードに打ち込んだ頭釘にも、マルチベースまたはボードプラスターFをこすり付けるように塗り付けてください。

目地処理から2時間以上空けてから下塗りを行ってください。

## ② マルチベースまたはボードプラスターFで下塗り

マルチベース 1 袋(20kg) に対して 清水 7.5ℓ または  
ボードプラスターF 1 袋(20kg) に対して 清水 5.8ℓ を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上十分に  
攪拌してください。

マルチベースまたはボードプラスターFで下ごすりを行い、追っかけで所定の塗り厚まで塗り  
付けてください。その後、水引きを見て金ゴテで平滑に押さえてください。

下塗りが完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。

## ③ 液体顔料の練り混ぜ(着色する場合)

漆喰くるむ-内 1 缶に対して、所定の液体顔料 1 本を入れ、ハンドミキサーで攪拌してくださ  
い。液体顔料が均一に混ざるように、缶の上部から下部まで万遍なく攪拌してください。

※ 事前に顔料ボトルを良く振ってからペーストと混ぜ合わせてください。また、液体顔料はボ  
トルの中に残さないで、使い切ってください。

※ 液体顔料を混合する時に水は入れないでください。ペーストの軟度が低下し、材料がダレや  
すくなります。

## ④ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむ-内で下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。  
また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

## ⑤ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促  
進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してくださ  
い。



## 5. ブレスシートを下地とする場合の施工方法

せっこうボード下地にブレスシートを使用する際の施工フローを図2に示す。

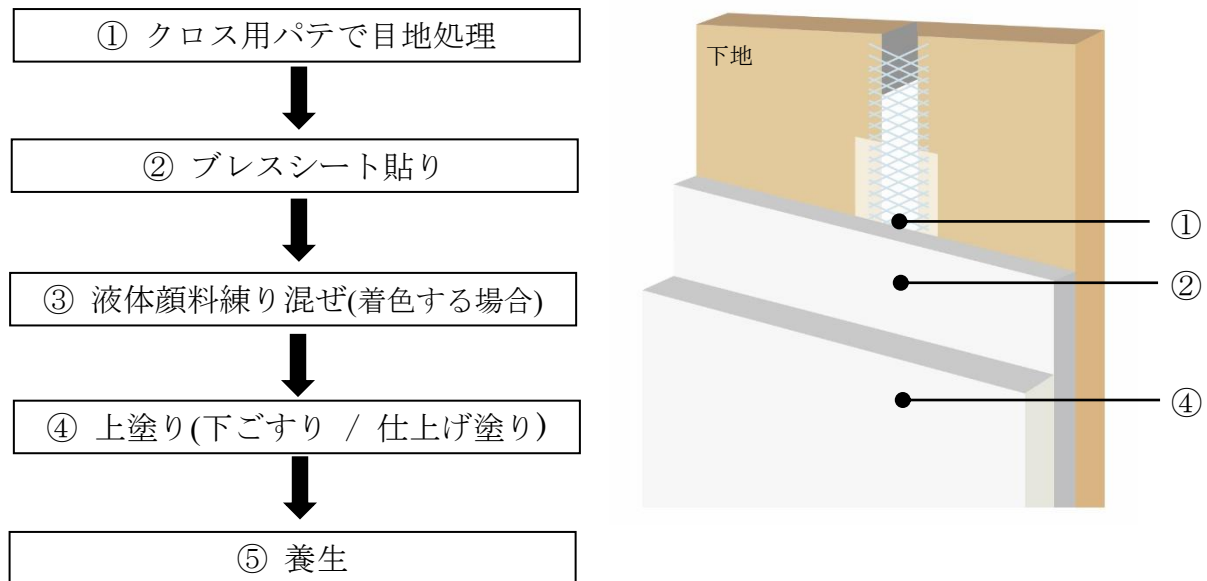


図2. ブレスシート下地の施工フローおよび構成図

### ※ 事前の確認

せっこうボードの貼りが万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、ボードが正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

### ① クロス用パテで目地処理

せっこうボードの継ぎ目・ビス止め部分にファイバーテープを貼り付け、パテ処理を施してください(下塗りと仕上げの2回パテ処理をしてください)。パテが完全に乾いた後、パテ用ペーパーで平滑にし、凹凸のない下地としてください。

### ② ブレスシート貼り

通常のコロス貼りと同じ施工方法でブレスシートの貼り付けを行ってください(詳細はブレスシートのリーフレット施工方法を参照してください)。**【入隅部】**では、基本的にはブレスシートをカットしてご使用ください。**【出隅部】**では、ブレスシートをむらなく廻し貼りにしてください。

**※ブレスシートは、ザラザラした面が下地接着面、ツルツルとした面が仕上げ面です。**

**※糊を希釈する時は、一般的なクロスを貼るときより、2割程度濃い目にしてください。**

**糊は糊付機を使い、一般的なクロスを貼る場合より、多めにつけてください。**

**※ブレスシートのジョイント部は、せっこうボードの継ぎ目やパテ処理部と重ならないよう、10cm以上離してください。**

**※全体の圧着には、クロス専用のハケベラを使用し、最後にスムーザーを使い、絶対に空気が残らないようにしてください。ひび割れや膨らみの原因となります。**

**※貼り付け後、中一日程度養生期間をとって糊が完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。**

### ③ 液体顔料の練り混ぜ(着色する場合)

漆喰くるむ-内 1 缶に対して、所定の液体顔料 1 本を入れ、ハンドミキサーで攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、缶の上部から下部まで万遍なく攪拌してください。

※ 事前に顔料ボトルを良く振ってからペーストと混ぜ合わせてください。また、液体顔料はボトルの中に残さないで、使い切ってください。

※ 液体顔料を混合する時に水は入れないでください。ペーストの軟度が低下し、材料がダレやすくなります。

### ④ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむ-内で下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

### ⑤ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

## 6. セッコウプラスター下地の施工方法

セッコウプラスター下地に適用する際の施工フローを図 3 に示す。

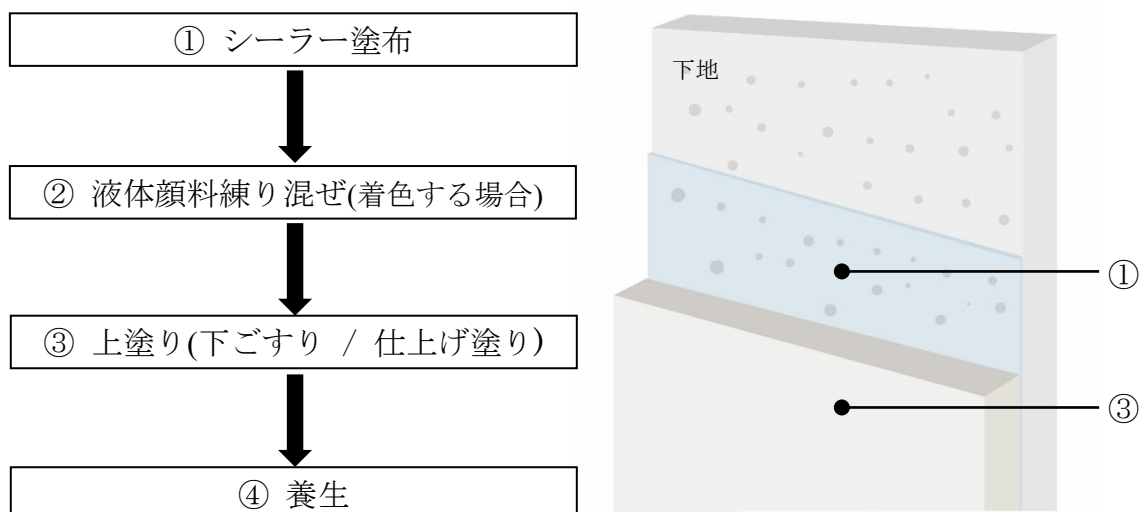


図 3. セッコウプラスター下地の施工フローおよび構成図

### ① シーラー塗布

NP シーラック 3 倍液を刷毛等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

## ② 液体顔料の練り混ぜ(着色する場合)

漆喰くるむ-内 1 缶に対して、所定の液体顔料 1 本を入れ、ハンドミキサーで攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、缶の上部から下部まで万遍なく攪拌してください。

※ 事前に顔料ボトルを良く振ってからペーストと混ぜ合わせてください。また、液体顔料はボトルの中に残さないで、使い切ってください。

※ 液体顔料を混合する時に水は入れないでください。ペーストの軟度が低下し、材料がダレやすくなります。

## ③ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむ-内で下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

## ④ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

**※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。**

## 7. 合板下地の施工方法

合板下地に適用する際の施工フローを図 4 に示す。

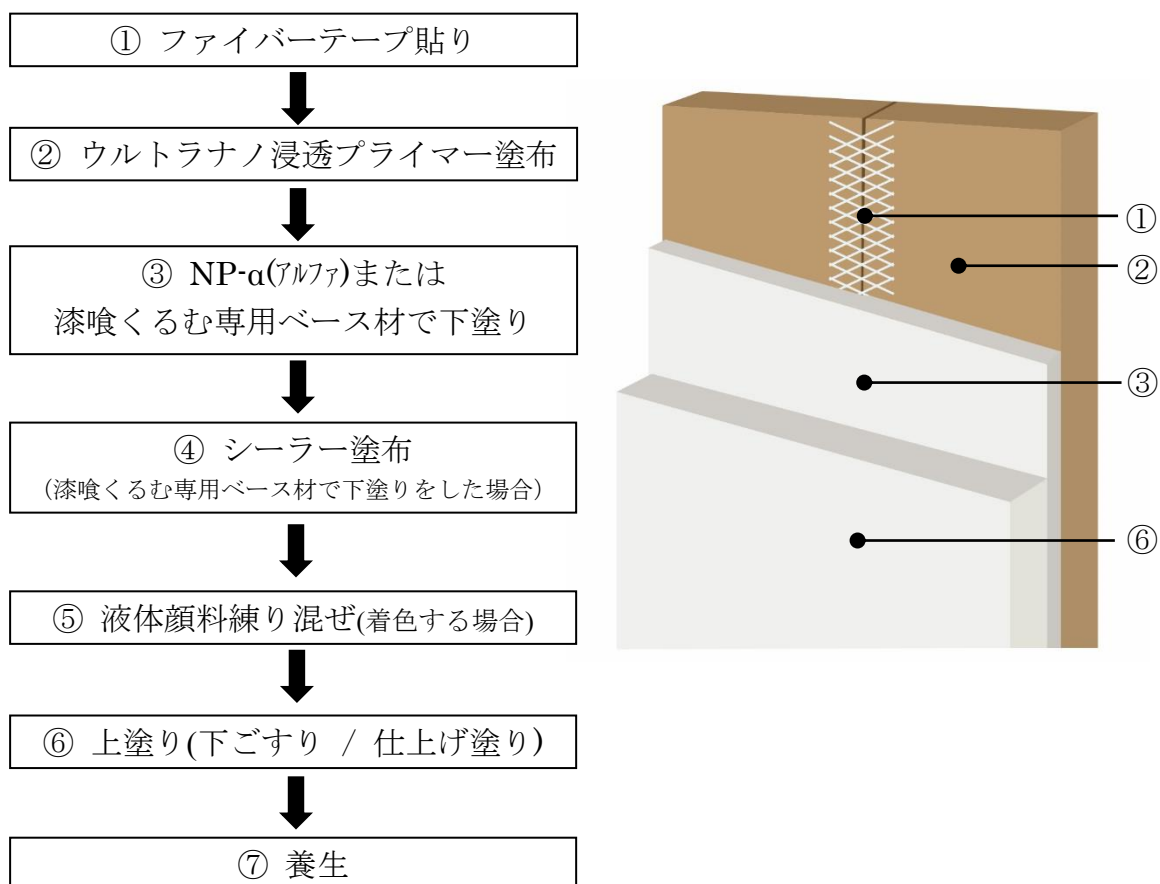


図 4. 合板下地の施工フローおよび構成図

## ※ 事前の確認

合板の貼り方が万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、合板が正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

### ① ファイバーテープ貼り

合板の継ぎ目にファイバーテープを貼り付けてください。

### ② ウルトラナノ浸透プライマー塗布

ウルトラナノ浸透プライマーを原液のまま刷毛やローラー等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

※ アク止めを目的としている為、必ず 2 回塗布して下さい。(合板の種類によっては 3 回塗布が必要な場合があります。)

### ③ NP-α (アルファ) または漆喰くるむ専用ベース材で下塗り

漆喰くるむ専用ベース材を使用する場合は、所定量の清水を混入し、ハンドミキサー(回転数 1,000rpm 以上)等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。

合板全面に NP-α(アルファ)または漆喰くるむ専用ベース材で下ごすりを行い、追っかけで所定の塗り厚まで塗り付けて平滑にしてください。

次工程(上塗り)までの養生期間は、通常期は翌日以降、冬期 24 時間以上としてください。

### ④ シーラー塗布(漆喰くるむ専用ベース材で下塗りをした場合)

NP シーラック 3 倍液を刷毛等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

### ⑤ 液体顔料の練り混ぜ(着色する場合)

漆喰くるむ-内 1 缶に対して、所定の液体顔料 1 本を入れ、ハンドミキサーで攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、缶の上部から下部まで万遍なく攪拌してください。

※ 事前に顔料ボトルを良く振ってからペーストと混ぜ合わせてください。また、液体顔料はボトルの中に残さないで、使い切ってください。

※ 液体顔料を混合する時に水は入れないでください。ペーストの軟度が低下し、材料がダレやすくなります。

### ⑥ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむ-内で下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

## ⑦ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

**※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。**

## 8. 出隅・入隅の施工方法

せっこうボードおよび合板下地の場合の出隅・入隅の施工方法に適用する際の施工フローを図5に示す。

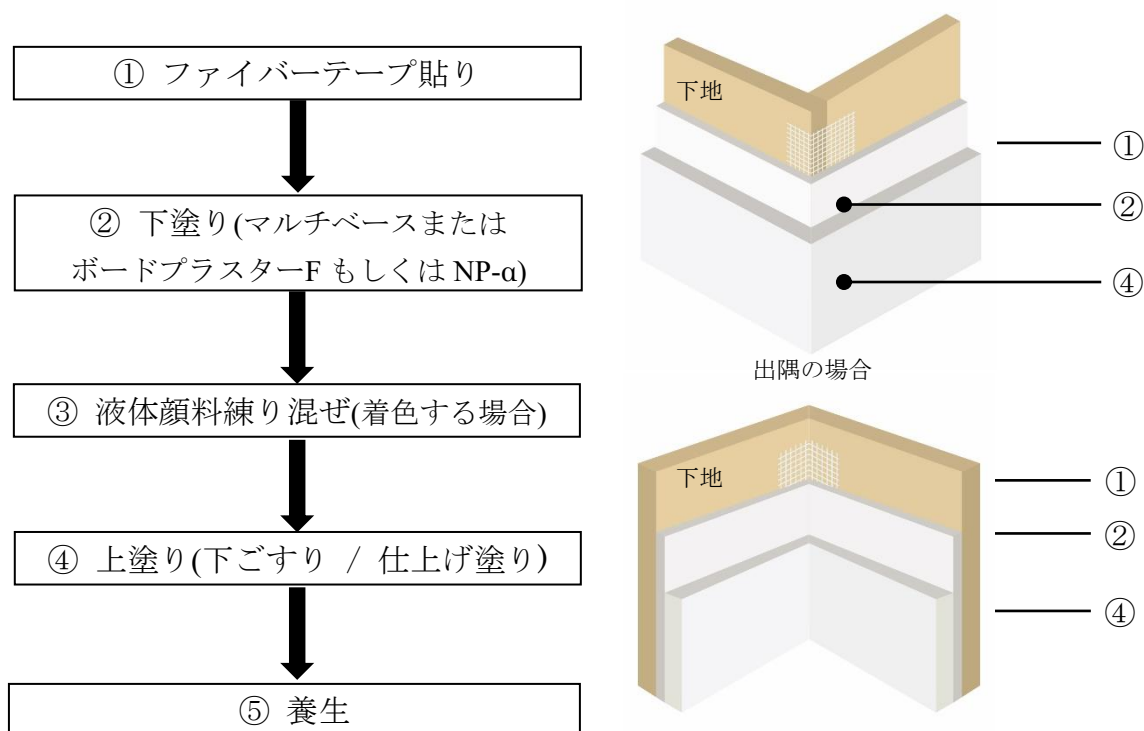


図 5. 出隅・入隅の施工フローおよび構成図

## ※ 事前の確認

せっこうボードまたは合板表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。出隅等でせっこうボードの切断面が露出した場合は、NP シーラック 3 倍液を塗布して乾燥させてください。

## ① ファイバーテープ貼り

せっこうボードまたは合板の出隅・入隅にファイバーテープを貼り付けてください。

## ② 下塗り

せっこうボード下地の場合は、マルチベース または ボードプラスターFで下塗りを行ってください。合板下地の場合はNP-α(アルファ)で下塗りを行ってください。

※ 合板下地の場合、ウルトラナノ浸透プライマーを原液のまま、刷毛やローラー等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。アク止めを目的としている為、必ず2回塗布して下さい。(合板の種類によっては3回塗布が必要な場合があります。)

## ③ 液体顔料の練り混ぜ(着色する場合)

漆喰くるむ-内 1 缶に対して、所定の液体顔料 1 本を入れ、ハンドミキサーで攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、缶の上部から下部まで万遍なく攪拌してください。

※ 事前に顔料ボトルを良く振ってからペーストと混ぜ合わせてください。また、液体顔料はボトルの中に残さないで、使い切ってください。

※ 液体顔料を混合する時に水は入れないでください。ペーストの軟度が低下し、材料がダレやすくなります。

## ④ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむ-内で下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

## ⑤ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

**※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。**

## 9. 仕上げパターン例

### 【 なぎ 】

#### ● 施工のポイント

材料を塗り付けた後、剣先コテを用いて半円を描くように軽くコテ筋を残しながら模様をつけます。コテ筋はランダムにクロスするようにつけてください。

※ 材料の塗り付けはなるべく平滑にし、模様付けはコテで強く押さえ過ぎないように注意してください。

※ 模様は同じ高さ、同じ間隔に揃えずにランダムになるようにしてください。

※ 表面乾燥が進むと模様付けが難しくなります。模様付けは材料塗り付け後、直ちに行ってください。また、模様付け終了後に再度コテを当てることも控えてください。（コテを当てた箇所のみ、質感が異なって仕上がる原因になります。）

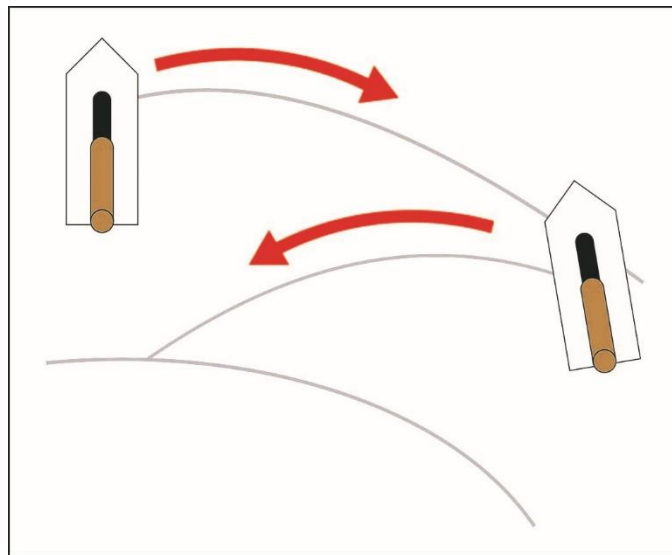


図 6.パターンの付け方

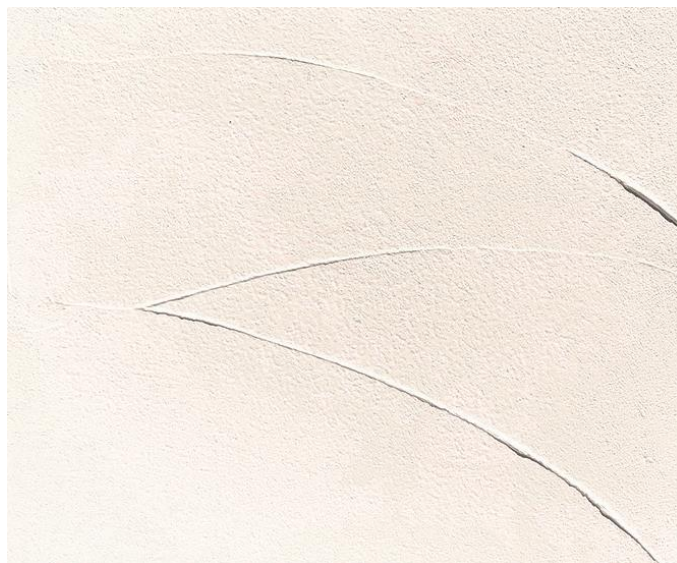


写真 1.仕上り



【 ゆらり 】

● 施工のポイント

材料を塗り付けた後、剣先コテのコテ先を用いてエッジ部分を立てずに材料を引っ張るようにして模様を付けてください。この時、上下左右ランダムに動かしながら模様をつけてください。

※ 材料の塗り付けはなるべく平滑にし、模様付けはコテで強く押さえ過ぎないように注意してください。

※ 模様付け時に跳ね上がりがないように、動かし方に注意して行ってください。

※ 表面乾燥が進むと模様付けが難しくなります。模様付けは材料塗り付け後、直ちに行ってください。また、模様付け終了後に再度コテを当てることも控えてください。（コテを当てた箇所のみ、質感が異なって仕上がる原因になります。）

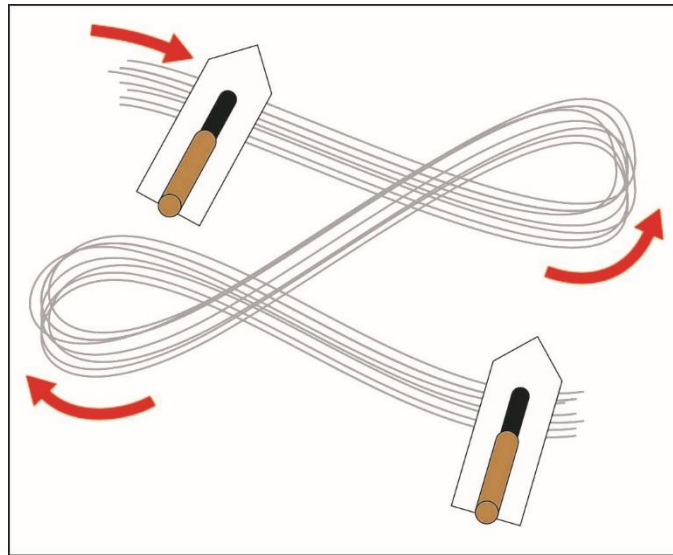


図 7.パターンの付け方

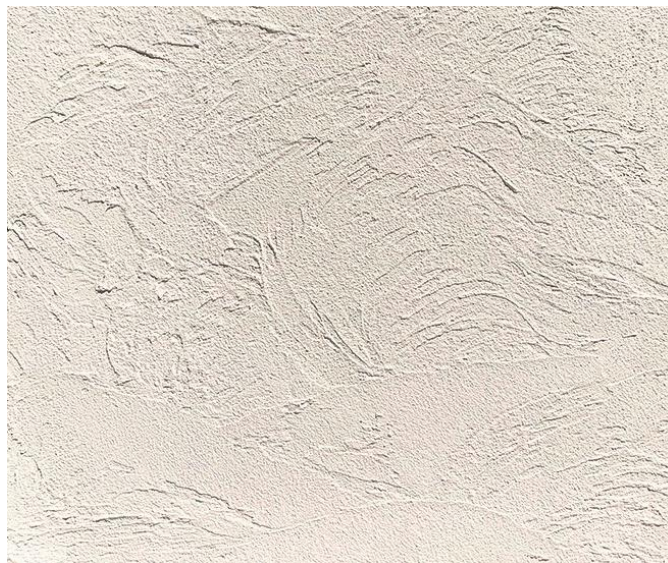


写真 2.仕上り



【 ざえん 】

● 施工のポイント

材料を塗り付けた後、木コテを用いてランダムに動かしながら凹凸が残る様に模様をつけてください。この時、上下左右ランダムに動かしながら模様をつけてください。

※ 模様付けの際、木コテで強く押さえ過ぎないように注意してください。

※ 模様付け時に跳ね上がりができないように、動かし方に注意して行ってください。

※ 表面乾燥が進むと模様付けが難しくなります。模様付けは材料塗り付け後、直ちに行ってください。また、模様付け終了後に再度コテを当てることも控えてください。（コテを当てた箇所のみ、質感が異なって仕上がる原因になります。）

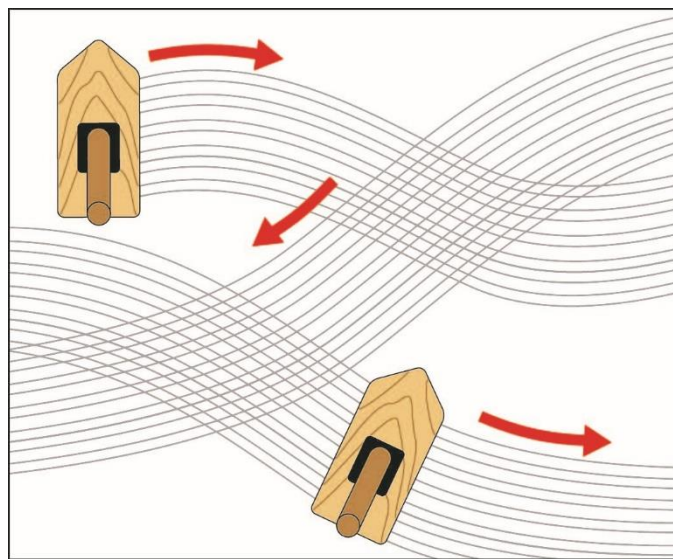


図 8.パターンの付け方



写真 3.仕上り

【 あさぎり 】

● 施工のポイント

材料を塗り付けた後、①木コテを用いてランダムに動かしながら凹凸が残る様に模様をつけてください。②手につかない程度に乾燥したのち、剣先コテを用いて凸部を平滑になるよう押さえてください

※ 模様付けの際、木コテで強く押さえ過ぎないように注意してください。

※ 押さえ過ぎには注意してください。テカリムラが起こる原因になります。

※ 表面乾燥が進むと、模様付けが難しくなります。模様付けは材料塗り付け後、直ちに行ってください。

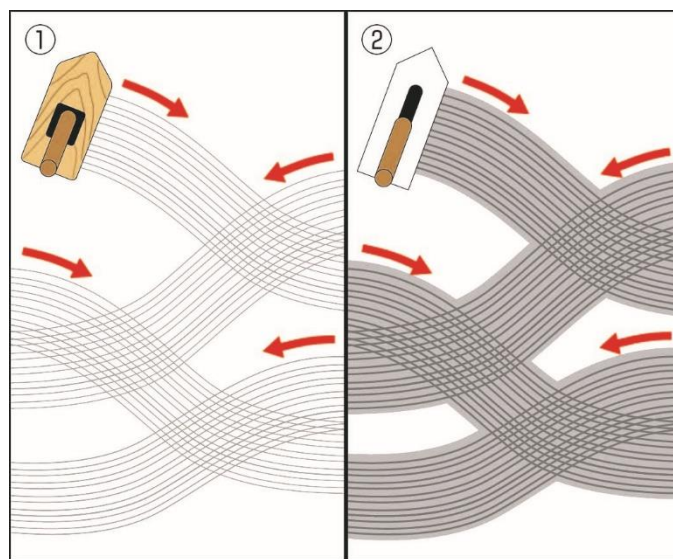


図 9.パターンの付け方

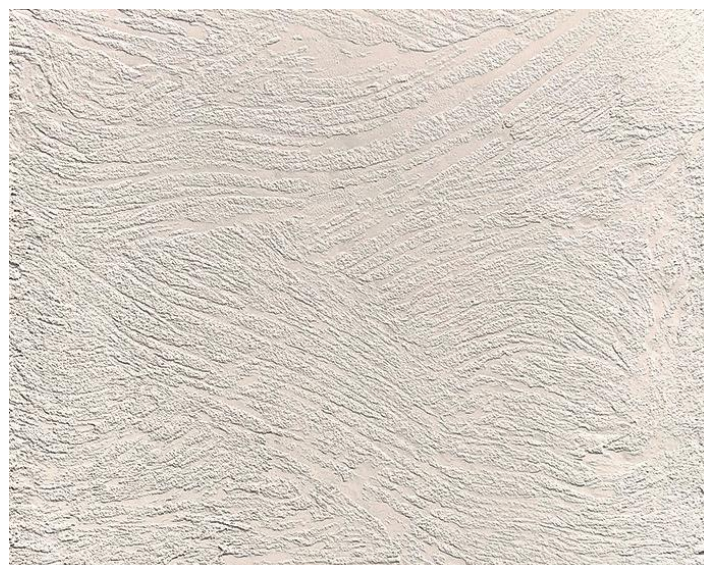


写真 4.仕上り



### 【やびき】

#### ● 施工のポイント

材料を塗り付けた後、剣先コテを壁面に対して水平にあて、軽く押さえつけながら剣先の反対方向に引いてください。模様は重なるようにつけてください。

※ 材料の塗り付けはなるべく平滑にし、模様付けはコテで強く押さえ過ぎないように注意してください。

※ 模様が重なった部分に塗材が溜まらないように注意してください。

※ 表面乾燥が進むと模様付けが難しくなります。模様付けは材料塗り付け後、直ちに行ってください。また、模様付け終了後に再度コテを当てることも控えてください。（コテを当てた箇所のみ、質感が異なって仕上がる原因になります。）

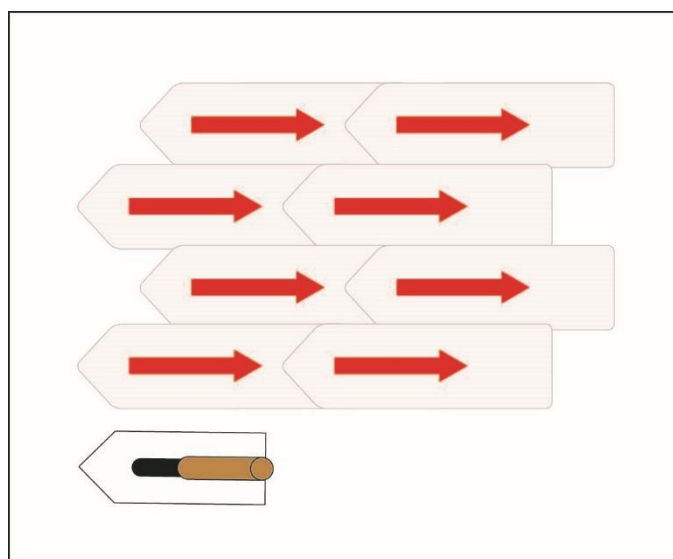


図 10.パターンの付け方



写真 5.仕上り

## 10. メンテナンス方法

| ヘアークラックが発生した場合                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【 簡単な補修方法 】</p> <p>ヘアークラックが発生した箇所の周辺を、布やすり(#180 程度)で、円を描くように軽くこすってください。</p> <p>※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>【 クラックが再発する場合 】</p> <p>漆喰くるむ-内を少量取り、クラック部分に塗り付けてください。余分な材料は取り除き、乾燥後、既存の壁との境目を布やすり(#240 程度)でこすってなじませてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 汚れが付着した場合                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>【 手垢など表面の汚れの場合 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消しゴムを使用して、表面の汚れを取り除いてください。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消しゴムで消えない場合は、布やすり(#180 程度)で軽くこすって汚れを取り除いてください。</li> </ul>  <p>※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。</p> | <p>【 染み込んだ汚れの場合 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重曹水を清潔な布などに湿らせ、叩くようにして汚れを取り除いてください。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでも取り除けない場合は、布やすり(#180 程度)で軽くこすって汚れを取り除いてください。</li> </ul> <p>※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。</p> |

### せっこうボードや合板の継ぎ目部分が目立つ場合

せっこうボードや合板の継ぎ目周辺を、布やすり(#180 程度)で、円を描くように軽くこすってください。※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。



#### 施 工 上 の 注 意

- 気温が 5℃以下および 35℃以上になる場合は、施工を見合わせてください。
- 本製品は凍結厳禁です。一度凍結したものは使用できません。
- 本製品は既調合品であるため、現場での練り混ぜ及び水を足しての練り戻しは絶対行わないでください。
- 施工前に必ず試し塗りを行い、パターンの付け方、仕上がり、および、乾燥具合の確認を行ってください。
- 本製品は自然素材です。塗り方、気象条件、製造ロットなどによっては、若干の色差が出る場合があります。
- 色物をご使用の場合、施工環境(気温・湿度・日当たり)や下地の状態、塗り厚の違い等により色ムラや白華現象が起こる可能性があります。特にナチュラルカラーをお選びの際は、色合いが濃くなりますので細心の注意を払って施工してください。(梅雨の時期など湿度が高い場合は色ムラが起きやすく、気温が低い場合は白華現象が起きやすくなります。対策については弊社営業までお問い合わせください。)
- 極端にパターンに凹凸がある場合、また気温・湿度・風などの施工環境によっては、塗膜にひび割れが発生する恐れがあるため注意してください。
- 施工道具を洗浄した洗浄水を河川や側溝に破棄しないでください。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から **12 ヶ月以上** のものは使用しないでください。
- 材料が余った場合は、表面が空気に触れないように付属のラップフィルムを余った材料の上へのせ、容器を密閉して冷暗所で保管してください。



### 日本プラスター株式会社

■ 本社・工場 / 〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2  
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851  
■ 東京営業所 / 〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4  
TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048  
■ 西日本営業所 / 〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170  
TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032